

2023年 8月28日

三浦雄一郎の挑戦・次のステージへ

2023年8月31日、三浦雄一郎（90歳）は富士山・山頂を目指します。

3年前の6月、特発性頸髄硬膜外血腫を患い、首から下が麻痺した状況からリハビリを重ね、翌年（2021年6月）、次男の豪太に支えられ富士山5合目で聖火ランナーとしておよそ150kmの距離を歩き、富士5合目に聖火を運ぶことが出来ました。その後トレーニングを重ね、歩ける距離が増え、階段の昇降もできるようになり、2年目には障害者用のデュアルスキー、そして今年の春（3月）には北海道の最高峰、旭岳を豪太がハーネスでサポートしながら自らの足で滑り降りました。病気発症後、約2年半は要介護4の状況、そして少しずつ回復したものの、神経性の障害は完全には治らず、未だ下半身に麻痺は残り、長時間に及ぶ活動は難しい状況です。

今回の富士登山はアウトドア用車いすを使用して仲間や家族たちと一緒に目指します

車いすで登る…とは登山とは言い難い、冒険家として打ち立ててきた過去の偉業を貶めるのでは？などマイナスな評価を得ることかもしれません。しかし、三浦雄一郎自身の挑戦の精神は今も昔も揺るぎないものであり、今回の富士山も90歳、等身大の自分と向き合いながらその限界を打ち破ることです。可能な限り自らの足で一步を刻むこと、そして仲間と共に山頂を目指す — 過去の冒険、1960年代から90年代はエベレストや富士山直滑降、世界7大陸最高峰からのスキー滑降など前人未到の記録達成、2000年代は70歳を過ぎてから3度のエベレスト登頂、人生のその時期における自分との最大限の闘いを続けてまいりました。そして次の三浦雄一郎の冒険のステージは、**90歳で障害を持つ身体で他者のサポートを得て臨むこと、その意義とは？ — それは人間いくつになっても或いはどんな障害を持ってても「挑戦」することができる、インクルーシブな社会で「夢」を追い求めるという、新たな冒険のステージです。** 三浦雄一郎の想いはシンプルで、

「仲間たちと一緒に山頂を目指すことを楽しみにしている、それが自分の冒険の原点である富士山であることがとても嬉しいし、幾つになっても夢を持ち続けたい」と語ります。その想いを分かち合った仲間たちと共に、さらに名誉校長を務めるクラーク記念国際高等学校の生徒たちも共に挑戦して登ります。

3年前、三浦雄一郎が病で身体的障害を患って以降、次男・豪太はどんな人々も自由にアウトドアを楽しむことを目的としたインクルーシブ野外教育の活動をスタートいたしました。冬・夏と様々なシチュエーションでスキーや登山、アウトドアキャンプを障害の有無や年齢に関わらず、のびのびと自然のなかでそれぞれの＜冒険＞を楽しむことが出来る。今回の三浦雄一郎の富士登山にてそんな思いが体現できればと願っております。

三浦雄一郎 90歳 富士登山の概要

スケジュール

- 8月29日 富士山 富士宮5合目より登山開始
※ 車いすを併用して七合目まで登攀 七号目山小屋 泊
- 8月30日 七号目 出発
※ 車いすを併用して九合目まで登攀 九合目山小屋 泊
※ クラーク高校生(29名) 九号目山小屋にて合流
- 8月31日 早朝・九合目出発 山頂を目指す ※ 車いす併用
登頂予定 登頂後下山 ※ 車いす併用
午後 富士宮5合目到着予定

**【車いす使用の登山手段については他の登山者に迷惑をかけぬよう、
最大限の考慮をして行います】**

三浦隊メンバー： 総勢 40名

過去に遠征をともにした仲間、スキーチームのメンバー、子供のころからスノードルフィンズのキャンプに参加していたメンバーなど昔からの仲間たち
及び 家族 (子ども、孫)

クラーク記念国際高等学校 登山隊： 総勢 47名

全国のキャンパスより登山隊メンバーの高校生 29名、引率教員、ガイド、山岳医

クラーク登山隊 [クラーク記念国際高等学校が「クラーク登山隊」を結成！ミウラ・ドルフィンズ全面協力のもと「日本百名山」制覇を目指す！ | 学校法人創志学園 クラーク記念国際高等学校のプレスリリース \(prtimes.jp\)](#)

ミウラ・ドルフィンズ
三浦恵美里
info@snowdolphins.com